

和歌山の留学生

# きのくに



- 02 巻頭言 | 「国際交流の推進を図り世界に  
通用する技術者を育成します」  
和歌山工業高等専門学校 校長 井上 示恩
- 03 寄稿文 | 留学生から
- 「留学生としての一步を踏み出すために」  
高野山大学 密教学科1回生 ラウン・ビェスナー (カンボジア)
- 「和歌山で学んでいます」  
和歌山工業高等専門学校 生物応用化学科 4年  
アマルツブシン ミチドマー (モンゴル)
- 「予想外の楽しさ！」  
和歌山工業高等専門学校 専攻科メカトロニクス工学専攻 研究生  
パラメット キョウターシー (タイ)
- 「謙譲語と接客：私が日本で出会った文化」  
近畿大学生物理工学部 人間環境デザイン工学科 2年 干 雨諾 (中国)
- 「砂糖、塩、涙」  
和歌山大学 交換留学生 ヴー・タイ・ソン (ベトナム)
- 「陽キャラになっちゃった」  
和歌山大学 交換留学生 廖 珮華 (台湾)
- 09 寄稿文 | 国際交流を考える
- 「留学生との出会い・交流」  
和歌山大学 経済学部 4年 植田 梨花 (日本)
- 10 留学生との交流行事
- 16 調査と統計
- 和歌山地域の留学生受入状況  
和歌山地域留学生の推移
- 協議会事務局より
- 36 事業報告  
要項／申合せ事項

# 国際交流の推進を図り 世界に通用する技術者を育成します

和歌山工業高等専門学校 校長 井上 示恩



1964年、産業界をリードする技術者の育成を目的として高等教育機関である和歌山工業高等専門学校（本校）は御坊市に設立されました。本校は、2024年に地元の教育・行政機関や企業等からの永きにわたる御支援・御協力のお蔭で創設60周年を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。設立後、広範多岐に渡る分野（機械、電気・情報、生物・化学、環境・都市工学等）において多くの技術者を地元和歌山県はもとより全国各地に輩出しています。

国際化の進展に伴い県内の各教育機関では学生間交流等が積極的に行われています。本校においても、中国上海電機学院やインドネシアのIPB大学（旧ボゴール農科大学）、スラバヤ工科大学、アトマジャヤカトリック大学と学術交流協定を締結しており、前2大学とは、毎年相互に10数名程度の学生間交流（約10日間の短期留学）を行っています。2023年には上海電機学院から創立70周年記念式典に招かれ、一層の学生間交流等の推進を図ることについて確認しました。タイ国とは2022年度から本校教員を2年間派遣し（今後も派遣予定）、2024

年度から同国の高専と学生・学術交流を開始しました。留学生関係では、2021年に学寮内に国際寮を設置し本校学生と留学生との新たな交流の場として活用しています。直近の2024年度における留学生の受け入れは、マレーシアから4名、タイから2名、カンボジアから1名、モンゴルから2名、チュニジアから1名の合計10名となっています。

これらの取組みにより本校学生の国際意識の向上がみられますが、さらに、2024年度から学生をグローバルに活躍できる技術者（「グローバルエンジニア」）として育成するため、学生の国際コミュニケーション力向上や、海外で積極的に活動するマインド等を育成する事業を実施しているところです。

引き続き、本校としては、教育機関等と連携を図りつつ、留学生事業や学生間交流等の国際交流を推進していきます。

# 「留学生としての一步を踏み出すために」

高野山大学 密教学科1回生

ラウン・ビェスナー

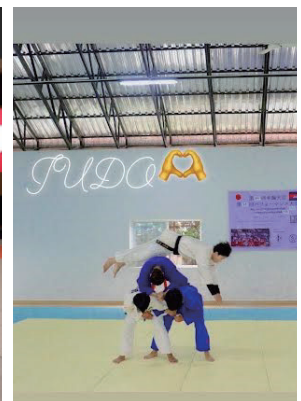
(カンボジア)

私はカンボジアのシェムリアップから来ました。シェムリアップは、世界遺産アンコールワットで有名な所です。この歴史ある文化と美しい遺跡を持つ国で育ったことを、私は誇りに思っています。

カンボジアでは、日本語を学ぶと同時に、空手道や柔道を通じて礼儀や忍耐を学びました。また、日本語学校では、日本の文化や歴史、さらには歌や行事などに触れる機会もありました。それは私にとってとても新鮮で、刺激的な経験でした。私はこれからも日本語や日本文化をもっと深く学び、将来、両国の架け橋になりたいと思っています。さて、私は日本に来るとき、日本語でコミュニケーションを取ることに、全然自信がありませんでした。初めて同級生と話そうとしたとき、緊張で胸がドキドキして、言葉がうまく出でこず、なかなか自分から話しかけることができませんでした。しかし、私に変化が訪れたのは、ある友達の一言がきっかけでした。「ラウン君、どうしてみんなと話さないの?何かあったの?」この問いかけは、私に勇気を与えてくれました。少しずつですが、友達と話す努力を始めました。友達との会話を増やすために、まずは挨拶を欠かさずするようにしました。その次に、少しずつ自分のことを話す練習を始めました。趣味の空手の話や、カンボジア伝統料理アモックの話をしました。

大学で合気道をしている上級生と知り合いになり、一緒に練習することになりました。最初は日本語でうまく説明できるか心配でしたが、先輩は優しくサポートしてくれたので、うまく説明できました。この経験は私にとって大きな励みとなり、自信が

きました。私が学んだ一番大切なことは、「挑戦する勇気を持つこと」です。たとえ間違えても、気にせず、友達や先生、と積極的に話していくことで、少しずつ自信がついていきます。最後に、私の好きな日本語の言葉をお伝えします。「七転び八起き」どんな困難があっても、必ずまた立ち上がることができる。これからの留学生活も、この言を胸に、頑張ります。



# 「和歌山で学んでいます」

和歌山工業高等専門学校 生物応用化学科 4年  
アマルツブシン ミチドマー  
(モンゴル)

日本とモンゴルの教育には違いが多いことに気がつきました。モンゴルでは小学校は5年、中学校は4年、高校は3年制です。日本の学校では宿題は少なく、学生は自分で復習したり、興味がある科目に集中したり、好きなことをする時間が結構あります。モンゴルでは宿題が非常に多く、小学生でも早い時間に寝ることが珍しくなっています。私の母は妹をちょっとでも早く寝かせるために妹の宿題を手伝っていました。また、モンゴルでは子供が家事をすることが普通です。両親が長時間働いていることが多いからです。以前、モンゴルにいた時、小学生が「家事をして、弟の面倒も見て、夏休み中勉強ができなかった。」と言っているニュースを見ました。他の人は笑っていましたが、私は少し悲しい気持ちになりました。しかし、こうしてモンゴル人は時間を有効活用することを子供のころから学んでいるのだと思います。

一方で、日本とモンゴルには似ているところもあります。日本では農家が減り、食料自給率が毎年低下しているのが現状です。私は農業をとてすばらしい職業だと思っていますが、その重要性がうまく伝えられていません。モンゴルで、「これが分からなかったら牧夫になれ」という言葉を聞きました。私はとてもショックでした。私は夏休みにモンゴルの田舎の牧夫さんの家に住んでいたことがあり、牧夫の難しさ、大変さがよく分かります。牧夫の一日は朝5時から始まります。起きてすぐに家畜の世話を始めます。冬は特に寒いので、火をおこし、ゲル内を暖めることも最初の作業です。次に牛やヤギ、馬などの乳を搾ります。その後、家

畜を広い草原に連れ出し、餌となる草を食べさせ、家畜の群れが分散しすぎないように見守りながら、移動を指揮します。ミルクからバターやチーズを作ったり、伝統的な衣類や道具を修理したりすることもあります。怪我や病気がある家畜を治療して、出産を控えた動物を特別にケアすることも忘れません。モンゴルの牧夫達は自然と共に生きる生活を送り、厳しい自然環境の中で家族と力を合わせ、伝統的な生活を維持している人達です。

日本人の農家も同じように毎日を忙しく過ごしていると思います。それなのに農家、牧夫の仕事が軽んじられていると感じます。「人が仕事を選ぶのではなく、仕事人が人を選ぶ」という言葉がモンゴルにあります。農家と牧夫は、何かができないからやっているのではなく、農業と畜産の仕事ができるからやっているのです。

# 「予想外の楽しさ！」

和歌山工業高等専門学校 専攻科メカトロニクス工学専攻 研究生

## ポラメット キョウターシー

(タイ)

日本に来て四ヶ月が経つ。私はタイの高専から和歌山高専の専攻科に一年間留学している。実は、日本に来る前は少し不安だった。というのも、これほど長い期間、海外で生活するのは初めてだからだ。日本での生活にちゃんと慣れることができるのか、友達ができるのか、最初はたくさんのことを考えていた。しかし、実際に来てみると、思っていた以上に素晴らしい経験が待っていた。

特に、最初に参加した旅行は私にとって忘れられない思い出になった。その旅行の最初の目的地は由良町で、私は他の留学生たちと一緒にスキューバダイビングに挑戦した。実はタイで何度かダイビングをしたことがあり、海の美しさを楽しむのが大好きだ。しかし、日本の海で潜るのは初めてだったので、どんな景色が広がっているのかワクワクしていた。水中に入ると、透き通った青い海に光が差し込み、カラフルな魚たちが目の前を泳いでいた。タイの海とは違う独特の静けさと美しさに圧倒され、まるで別世界にいるような感覚だった。ダイビングを終えた後は、そのまま白崎海岸でクルージングを楽しんだ。真っ白な岩と青い海が織りなす景色はまるで地球上ではないかのようで、潮風を感じながら眺める景色は贅沢そのものだった。

次に訪れたのは橋杭岩。海岸沿いに並ぶ奇岩が作り出す風景は圧巻で、その不思議な形と壮大なスケールに驚かされた。干潮時だったため、岩の近くまで歩いていくことができ、大自然が生み出した芸術を間近で感じることもできた。

その後、私は日本の歴史と文化を感じるために、熊野古道を巡り、三つの大社を訪れた。熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社だ。それぞれの神社には独特の雰囲気があり、歴史を感じさせる建築や森に囲まれた神聖な空間に感動した。

特に、那智大社の近くにある那智の滝は圧巻だった。高いところから流れ落ちる滝を見て、心が洗われるような気持ちになった。

最後に訪れたのは、和歌山で有名な白浜ビーチだった。ここはまるで南国のような白い砂浜と青い海が広がる場所で、まさに楽園のようだった。海の水はとても澄んでいて、波の音を聞きながらリラックスできた。友達と一緒に遊んだり、美味しい海鮮料理を食べたりして、素晴らしい時間を過ごした。

この旅行を通して、私は和歌山の自然の美しさを改めて実感した。そして、日本に来る前には想像もしていなかったような楽しい体験ができた。不安だった気持ちもすっかりなくなり、日本での生活がどんどん楽しくなっている。これからの残りの留学生活も、もっとたくさんの場所を訪れ、新しい発見を楽しみたいと思う。日本での毎日は、予想以上に素晴らしいものになっている。

# 「謙譲語と接客：私が日本で出会った文化」

近畿大学生物理工学部 人間環境デザイン工学科 2年

干 雨諾  
(中国)

私は、日本に来る前に、できるだけたくさん日本語を勉強しようと思っていました。「あいうえお」の50音から始めて、簡単な挨拶はもちろん、敬語も勉強してきました。私にとって、特に謙譲語は難しく、繰り返し、繰り返し勉強してきました。ところが、実際に日本に来て生活を始めると、謙譲語は単なる言葉遣いにとどまらず、毎日の生活の中に、たくさんあることがわかりました。

それを最初に実感したのは、日本に来て間もない頃、携帯ショップに行った時です。店員さんが、当たり前のように私の隣に膝をついて、料金プランを説明してくれました。私は驚きました。「え?どうして?!なんで初対面の私にひざまずいて説明するの?」日本での最初のカルチャーショックでした。

中国では、「ひざまずく」という行為は特別な意味を持っていて、普通は親や尊敬する人に対して行う動作です。店員さんにひざまずかれた私は、なんだかとても敬われている気分になり、戸惑ってしまいました。

これをきっかけに、私は日本での日常生活における「ひざまずくサービス」に興味をもちました。そして、その背景にある文化を調べてみた結果、中国と同様に日本でも、ひざまずく行動は古代の礼儀文化に



由来していることがわかりました。しかし、中国と日本では異なる点があります。中国では膝をつく行為は、結婚式や親への感謝を表すときなど特別な儀式でよく使われます。一方、日本ではこれがサービスなどの日常として受け入れられています。顧客の視線よりも自分の視線を下げることで、顧客への敬意や配慮を表しています。「これって、日本語の授業で学んだ謙譲語だ!」と私は思いました。

この体験を通じて、日本の敬語が単なる言葉だけではなく、相手を尊重し思いやる姿勢そのものであることを知りました。私は、これからも日本文化に対する新しい気づきを重ねつつ、自分自身を成長させていきたいと思います。



# 「砂糖、塩、涙」

和歌山大学 交換留学生  
**ヴー・タイ・ソン**  
 (ベトナム)

4月、春が始まると同時に、留学生活がスタートした。ここで、たくさんの国際的な友達と出会った。彼らはみんな個性があり、時々天才のような人もいて、とても良い友達だった。出会いはいつも特別だが、人生と同じで、出会えば別れもある。一年間の交換留学の中で、その別れは4月に咲く和歌山城の桜のように、美しく儂いものだ。だからこそ、一つ一つの瞬間を大切にする。



一番印象的な思い出の一つは、ちょっと変わった中国人の男の子との出来事だ。彼はご飯を炊くための水の量さえ分からない。ある日、彼が夕食に招待してくれるので、喜んで行くことにした。自分がご飯を炊き、彼が他の料理を担当した。出来上がった料理を見た瞬間、胃が心配になった。

一口食べた瞬間、心の中で「助けて!」と叫んだ。でも、まだ親しくないで、「美味しい」と言って彼を喜ばせる。しかし、彼が一口食べた時、顔色が変わり、すぐにキッチンに走った。頭をかきながら「ごめん、塩じゃなくて砂糖を入れた」と謝った。その後、二人は料理を見て、顔を見合わせて涙が出るほど大笑いした。飲み物を探すと冷蔵庫にホロヨイが2缶しかなく、それを飲んで夕食を終えた。

次の思い出は、インド人の友達との旅行だ。彼はたくさんの言語を話せる天才で、とても親切な人だ。



一緒に旅行し、同じ部屋で寝て、温泉にも入った。最初は裸で入るのが恥ずかしいが、だんだん慣れた。時々 Google 翻訳を使いながらおしゃべりし、気持ちを分かち合う。言葉が違って、意外とお互いを理解できたのが不思議だ。

2024年9月、私の友達が一人一人帰国するたびに、心に空っぽな感じが残る。涙が出る一別れの悲しみで塩のようにしょっぱく、でも同時に甘い気持ちもある。なぜなら、素晴らしい友達と忘れられない思い出を持つことができたからだ。その涙は悲しみだけでなく、幸せも感じさせてくれる。国際交流を通じて、私はいろいろなことを学ぶ一小さな違いから、私たちの間の見えない絆まで。

国際交流は、文化を交換するだけでなく、国々の間に強い関係を作るために大切だ。短い時間でも、素晴らしい思い出は私の心に残り続ける。それは、桜の花のように儂くて美しいものだ。





# 「陽キャラになっちゃった」

和歌山大学 交換留学生

廖 珮華

(台湾)



まずは自己紹介!この文章を読んでいる方、初めまして、こんにちは、こんばんは!中国河南省の鄭州大学からきた交換留学生、廖珮華と申します!最初は、「日本語学科の学生なのに、一度日本へ留学したことがないのはおかしいよね」と思って、ちょうど交換留学の機会があったので、和歌山大学にきた。

交換留学のおかげか、教育学部に入ったものの授業が少なくて、自分の好きなことができる時間いっぱいあった!ようやく親と昔の先生たちが言っていた「気楽な大学生活」が過ごすことができた。ここで色々な組織やサークルなどに感謝を表します。たくさんイベントをありがとうございました!「せっかくの留学だから、ずっと寮にいてもよくないだろう」と思って、IEC や交流課などが主催するイベントには、できるだけ全部参加した。

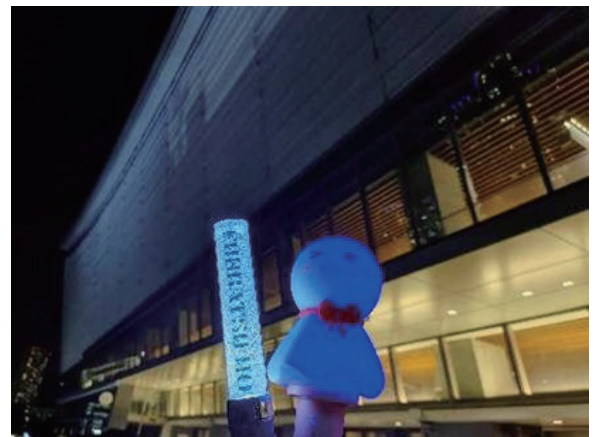
最も印象に残ったのは、IEC のフリートークと多言語サロンだ。コミュニケーション能力が上がりたいを目標として、授業だけでは足りなくて、やはり直接人と話すのが一番早いと考えた。こんなのイベントのおかげで、外国に興味がある人たちと話した。

日本での留学生活は半年だけで、あっという間に終わってしまった。長くないけどほんとに楽しかった。

クラスメートと一緒に北海道へ旅行したり、東京へ一人旅をしたり、人生で初めてのコンサートをみたりして、たくさんのいい思い出を作った!

さて、タイトルに戻るが、なぜ私が「陽キャラになっちゃった」と言うのでは?もし以前の私なら、言語の壁がある前提で見知らぬ人と一時間くらい交流して、お別れ会の時多くの人たちにサインをお願いするなんて、ありえないことだった。人との付き合いを楽しんで、再会を期待して、まるで陽キャラみたいに日常生活を楽しめるようになった。今の私はもう、人とのコミュニケーションが怖くない。むしろ好きだといってもよいだろう。

この半年間で出会った人に、心より感謝いたします。もし機会があれば、また和歌山に戻りたい。最後に、この文章を最後まで読んでくださった方にも心より感謝申し上げます。



## 「留学生との出会い・交流」

和歌山大学 経済学部 4年

植田 梨花

(日本)

和歌山大学で経験した国際交流について述べる。私は3年次に和歌山大学へ編入した。この学生生活を振り返ると、留学生との出会いが私の学生生活をより豊かにしてくれたと感じている。

編入した4月、私はIEC（国際交流委員会）サークルに加入した。もともと異文化交流に興味があり、多くの留学生と交流できることを楽しみにしていた。授業では留学生と接する機会があまりなかったため、サークルや多言語サロンを通じて交流を深めた。特に、同じ学生寮に住む日研生との関わりが深く、彼らの学ぶ姿勢や熱意に刺激を受けた。彼らは共に頑張る仲間であり、家族のように温かく大切な存在である。



また、大学生活に慣れ始めた頃、留学生と一緒に観光地を訪れたり、祭りやイベントに参加したりした。一緒に食事する際には、それぞれの母国の食文化について共有し、文化の違いを楽しむことができた。

最近では、国際交流課が主催したマレーシアイベントへの参加が特に印象的だった。このイベントでは、初めてヒジャブを身につける体験をした。ヒジャブにはさまざまな巻き方があり、デザインが引き立つ巻き方に仕上げてもらい、とても新鮮で楽しい経験

となった。このイベントを通じて新たな留学生との出会いがあり、残り少ない大学生活においても貴重な思い出となった。



振り返ると、大学というコミュニティを活かして異文化交流を楽しめたことは、学生生活をより豊かで充実したものにしてくれた。もちろん、出会いがあれば別れもある。それもまた、私がこの2年間で学んだ大切な経験の一つである。帰国した留学生とは今でも定期的に連絡を取り合っており、再び日本に来るといふ知らせを聞いたときは、再会が楽しみになる。そして、私自身もいつか彼らの国を訪れ、さらに深くその国の文化を知りたいという夢を抱くようになった。私は、和歌山大学の留学制度を利用できなかったが、大学内での交流を通じて、「学内留学」をしているような感覚を得ることができた。

この経験から、留学生との交流は、他国の文化を知るだけでなく、彼らの視点を通じて、自国の新たな魅力や姿を発見する学びの機会でもあったと感じた。和歌山大学で得た国際交流の経験は、社会人になってからも国際的な視野を広げ続けるための糧として活かしていきたいと考える。

## 令和6年度留学生交流活動行事（事業）



令和5年 4月	春の新入留学生オリエンテーション 和歌祭御船歌・唐人衣装披露 春の新入留学生歓迎交流会
5月	JR 避難訓練 留学生見学旅行「バスで行く大阪日帰りツアー」 有田川町立八幡中学校 留学生との交流授業 多言語サロン 2023 前期
6月	和歌山市観光に関する留学生ヒアリング 国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川 書道パフォーマンス体験
7月	短期交流受入プログラム（アメリカ・ベーカーズフィールド市学生訪日団） 短期交流受入プログラム（オーストラリア・ウーロンゴン大学） 短期交流学生プログラム（サマープログラム） 短期交流受入プログラム（南加和歌山県人会） 短期交流受入プログラム（中国・山東師範大学訪問団） 第16回留学生による作文コンクール 短期交流受入プログラム（タイ・Mahasarakham University）
8月	短期交流受入プログラム（中国・山東省友好提携40周年記念訪問団）
9月	日本語・日本文化研修留学生 修了式
10月	秋の新入留学生オリエンテーション 秋の新入留学生歓迎交流会
11月	短期交流受入プログラム（オーストラリア・カーティン大学） 山東省訪問団（日中植林・植樹国際連携事業） 交流授業 多言語サロン 2024 後期
12月	第22回学長杯留学生による日本語スピーチコンテスト
令和6年 1月	学内国際交流イベント「マレーシアの日」 高野山高校との交流授業（長友先生の日研生クラス） 中南米県人会 交流授業（長友先生、東先生）

# 留学生との交流行事

■令和6年度留学生交流活動行事（事業）



▲和歌祭御船歌・唐人衣装披露



▲留学生見学旅行「バスで行く大阪日帰りツアー」



▲短期交流学生プログラム（サマープログラム）



▲第16回留学生による作文コンクール



▲秋の新入留学生歓迎交流会



▲多言語サロン 2024 後期



▲第22回学長杯「留学生による日本語スピーチコンテスト」



▲学内国際交流イベント「マレーシアの日」

# 留学生との交流行事

■令和6年度留学生交流活動行事（事業）

## 和歌山工業高等専門学校

令和6年 4月	留学生ガイダンス
10月	留学生研修旅行
12月	日本語スピーチイベント
12月	御坊市立河南中学との交流
12月	留学生日本文化交流会



▲留学生ガイダンス



▲日本語スピーチイベント

## 和歌山県立医科大学

令和6年 5月	香港中文大学学生交流（薬学部）
10月	山東大学学生交流

## 高野山大学

令和6年 4月	新入留学生オリエンテーション
---------	----------------

## 近畿大学生物理工学部

令和6年 4月	新入留学生オリエンテーション
---------	----------------

## NPO 法人 WIN コンコード

令和6年3月	新入生歓迎お花見（休暇村紀州加太）
4月	高野山研修
5月	根来寺 和歌山県植物公園緑花センター見学 山中溪ハイキング 留学生によるスピーチと交流会
6月	白崎海岸公園 広川町防災センター 仁平寺見学（紫陽花）
9月	マレーシア留学生と食事会 日研生と交換留学生の送別会 2024年度後期新入生歓迎会
10月	新入生和歌山市内案内 落語鑑賞 大相撲和歌山場所秋巡業観戦
11月	WIN コンコード設立 33 周年記念の集い
12月	石上神宮 天理観光農園 大神神社（三輪明神） 観光 八朔狩り・大根掘り、忘年会
令和7年1月	初詣（玉津島神社、和歌浦天満宮）、新年会 第22回学長杯 留学生による日本語スピーチコンテスト 奨励賞贈呈
2月	白浜 南部梅林 観光
3月	卒業生を祝う会（予定） 湯浅町見学（醤油工場、ラジオ放送局など）



▲新入生歓迎お花見（休暇村紀州加太）



▲白崎海岸公園 広川町防災センター 仁平寺見学（紫陽花）

# 留学生との交流行事

■令和6年度留学生交流活動行事（事業）



▲マレーシア留学生と食事会



▲日研生と交換留学生の送別会



▲2024年度後期新生歓迎会



▲大相撲和歌山場所秋巡業観戦



▲WIN コンコード設立 33 周年記念の集い



▲石上神宮 天理観光農園 大神神社（三輪明神） 観光



▲八朔狩り・大根掘り、忘年会



▲初詣（玉津島神社、和歌浦天満宮）、新年会

# 留学生との交流行事

■令和6年度留学生交流活動行事（事業）

## 和歌山国際ボランティア組織 KNOW

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| 令和6年 10月 | 第32回外国人による日本語スピーチ大会 |
| 令和7年 1月  | 新春国際交流パーティー         |
| 3月       | 和歌山城でそうじ&お花見（予定）    |



▲外国人による日本語スピーチ大会



▲新春国際交流パーティー

## 国際ソロプチミスト和歌山

令和6年 11月 | 留学生との交流会



▲留学生との交流会



## 日中友好協会

令和7年 2月 | 春節餃子会



## 和歌山地域の留学生受入状況

令和6年10月1日現在

国・地域名		大学等名		和歌山大学	和歌山県立医科大学	高野山大学	近畿大学 生物理工学部	和歌山信愛 女子短期大学	和歌山工業 高等専門学校	合計
		国	地域名							
アジア	中国	96	5	12	22	-	0	135		
	台湾	2	0	0	0	-	0	2		
	韓国	4	0	0	0	-	0	4		
	モンゴル	3	0	0	1	-	2	6		
	ベトナム	10	0	1	1	-	0	12		
	インドネシア	5	0	0	0	-	0	5		
	マレーシア	25	0	0	0	-	4	29		
	タイ	4	0	0	0	-	2	6		
	ラオス	1	0	0	0	-	0	1		
	フィリピン	1	0	0	0	-	0	1		
	パキスタン	2	0	0	0	-	0	2		
	カンボジア	0	0	1	0	-	1	2		
大洋州	インド	0	0	1	0	-	0	1		
ソロモン諸島	1	0	0	0	-	0	1			
欧州	ベラルーシ	1	0	0	0	-	0	1		
	フランス	1	0	0	0	-	0	1		
	ウズベキスタン	3	0	0	0	-	0	3		
	ロシア	0	0	1	0	-	0	1		
	アルバニア	0	1	0	0	-	0	1		
中東	イスラエル	1	0	0	0	-	0	1		
	マダガスカル	1	0	0	0	-	0	1		
アフリカ	ジンバブエ	1	0	0	0	-	0	1		
	チュニジア	0	0	0	0	-	1	1		
	コートジボワール	0	1	0	0	-	0	1		
合計（24カ国・地域）		162	7	16	24	-	10	219		
留学費用別内訳	国費留学生	20	1	0	0	-	5	26		
	私費留学生	外国政府派遣留学生	25	0	0	0	-	5	30	
		交換留学生	41	0	0	0	-	0	41	
		県費留学生	0	0	0	0	-	0	0	
		上記以外留学生	76	6	16	24	-	0	122	
合計		162	7	16	24	-	10	219		

## 和歌山地域の留学生推移

	全国5/1	県全体 10/1	和歌山大学	和歌山県立 医科大学	高野山大学	和歌山工業 高等専門学 校	近畿大学 生物理工学 部	和歌山信愛 女子短期大 学	近畿大学 青鞥短大
平成3年	45,066	33	25	3	1	4	0		
平成4年	48,561	41	29	7	1	4	0		
平成5年	52,405	55	40	8	3	4	0		
平成6年	53,787	76	58	9	3	5	0		1
平成7年	53,847	78	58	9	3	5	0	2	1
平成8年	52,921	76	59	8	1	6	0	2	
平成9年	51,047	78	55	12	4	7	0		
平成10年	51,298	75	53	13	3	6	0		
平成11年	55,755	86	71	9	1	5	0		
平成12年	64,011	93	75	12	1	4	1		
平成13年	78,812	103	80	17	2	3	1		
平成14年	95,550	123	96	18	3	4	2		
平成15年	109,508	138	110	18	3	5	2		
平成16年	117,302	173	143	20	3	6	1		
平成17年	121,812	178	147	18	3	9	1		
平成18年	117,927	180	150	16	3	10	1		
平成19年	118,498	170	138	18	1	12	1		
平成20年	123,829	174	140	18	1	14	1		
平成21年	132,720	186	151	15	1	16	3		
平成22年	141,774	180	147	13	1	15	4		
平成23年	138,075	178	151	6	1	16	4		
平成24年	137,756	201	177	13	1	8	2		
平成25年	135,519	215	201	4	0	9	1		
平成26年	※184,155	228	206	8	3	8	3		
平成27年	208,379	207	186	5	3	8	5		
平成28年	239,287	176	150	4	6	8	8		
平成29年	267,042	174	137	7	14	7	9		
平成30年	298,980	204	156	6	26	8	8		
令和元年	312,214	216	171	7	21	9	8		
令和2年	279,597	172	124	8	21	10	9		
令和3年	242,444	200	151	7	17	11	14		
令和4年	231,146	214	169	8	12	10	15		
令和5年	279,274	226	170	9	14	10	23		
令和6年	未掲載	219	162	7	16	10	24		

※平成26年度より高等教育機関及び日本語教育機関における総数を本調査における留学生数としている。  
 (独立行政法人日本学生支援機構ホームページ記載  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_e/index.html](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/index.html))

## ■事業報告

広報誌「きのくに」第34号を発行し、ホームページへ掲載した。巻頭言は、高野山大学添田隆昭学長に協力いただき、学生の寄稿文及び各種調査統計についても、当協議会所属団体のご協力を得て、結果を掲載した。

## ■和歌山地域留学生等交流推進協議会要項

### (趣旨及び目的)

第1 和歌山県内における外国人留学生等の円滑な受け入れの促進及び地域との交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するため、和歌山地域留学生等交流推進協議会（以下「協議会」という。）を置く。

### (事業)

第2 協議会は、第1に掲げる目的を達成するため、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 留学生の受入れの推進
- (2) 留学生の勉学条件及び生活環境の整備
- (3) 留学生と地域住民との交流の推進
- (4) 地域住民に対する啓発
- (5) その他協議会の目的達成に必要な事業

### (組織)

第3 協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 和歌山県内の高等教育機関、国の機関、地方公共団体、経済団体及び留学生国際交流関係団体  
のうちの関係機関 団体の長又は代表者 各1名
- (2) 学識経験者若干名
- 2 前項の委員は、議長が委嘱する。
- 3 第1項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

### (議長)

第4 協議会に議長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 議長は、協議会を招集する。
- 3 議長の任期は、4月1日より2年間とし、再任を妨げない。

### (委員以外の者の出席)

第5 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を協議会に出席させることができる。

### (運営委員会)

第6 協議会の円滑な運営を図るため、協議会の下に和歌山地域留学生等交流推進協議会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) 第3の第1項第1号に定める機関 団体から推薦された実務担当責任者各1名
  - (2) その他協議会が必要と認めた者 若干名
- 3 前項の委員は、協議会議長が委嘱する。
- 4 第2項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 5 運営委員会に委員長を置き、協議会議長が指名する者をもって充てる。
- 6 委員長の任期は、4月1日より2年間とし、再任を妨げない。

## (事務)

第7 協議会及び運営委員会の事務は、国立大学もしくは地方公共団体等が担当する。

## (雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、協議会及び運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

## 附 則

この要項は、平成2年2月13日から施行する。

## 附 則

この改正要項は、平成13年4月1日から施行する。

## ■和歌山地域留学生等交流推進協議会に関する申合せ事項

### ● 協議会の運営について

1. 協議会は、年1～2回開催することとする。
2. 協議会には、必要に応じ運営委員会委員の出席を求めるものとする。

### ● 運営委員会の運営について

1. 委員長は、運営委員会を招集し、その議長を務める。
2. 運営委員会は、協議会の事業計画に関する具体的事項について協議するため、適宜開催するものとする。
3. 運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

### ● 協議会議長並びに運営委員会委員長の任期の取り扱いについて

1. 協議会議長並びに運営委員会委員長の出身団体における任期が終了した場合、前任者の残任期間は、出身団体における後継者が、その任にあたる。

## 附 則

この改正事項は、平成13年4月1日から施行する。

